

育成だより

第112号

【発行】 大刀洗町青少年育成町民会議 TEL 77-2670 FAX 77-2760

【編集】 大刀洗町青少年育成町民会議広報委員会

令和元年度 大刀洗町青少年育成町民会議の取組み

主な取組みは4つです。

少年の主張大会開催 (敬称略)

日時：令和元年11月9日(土)

発表者：大刀洗中学校 1年 加賀田光優
2年 熊谷 美咲
3年 酒井 千里

【(2)～(3)ページに全文掲載】

大刀洗小学校 6年 仲野海希翔・井島絵瑠夢
菊池小学校 6年 佐藤 奈南・久保山祐太
大堰小学校 6年 大倉 稔也・長野 真寛
本郷小学校 6年 山田 心優・原田 大我

【(6)～(12)ページに全文掲載】



福岡県青少年育成県民会議筑後北地区研修大会

(大刀洗町の今年度担当事業)

日時：令和元年8月10日(土)

会場：ドリームセンター

内容：講演

各校区アンビシャス広場・チャレンジ教室写真パネル展

講師：吉田 俊道 氏 (NPO法人大地といのちの会理事長)

演題：「大地の恵みで究極の元気っ子に」

～体力・気力・学力の向上は食から～

【(13)ページに内容を掲載】



「家庭の日」行事共催

「まなび講座」とのコラボレーション企画

第1回 「親子でレトロゲーム」

令和元年8月3日(土)

第2回 「文章検定」

令和元年10月26日(土)

第3回 「お菓子の家づくり」

令和元年12月22日(日)

【(14)ページに関連記事掲載】



「育成だより」第112号発行

(広報委員会にて編集して年1回)

少年の主張大会

「私からのメッセージ」 中学生の部



自信のない私に できること

大刀洗中学校
一年 加賀田光優

「背筋をのばし、胸を張る」そんなときはどんなときかわかりますか。それは、自分に自信があるときです。私は、「背筋をのばし、胸を張る」ことができません。どうしても「背中がまるく」なってしまうんです。私は、いつも過去の失敗をひきずってしまいがちで、夜、目をつぶると、なんて自分はダメなやつなんだと考えてしまいます。

そんな私を理解し、認めてくれる唯一の存在が母です。母は、私のことをよく見ていてくれます。私の様子が少しでもかわると、声をかけてくれたり、気をつかってくれたりしてくれます。自分のことも大事なはずなのに、私のことばかり気をつかってくれている。そんな母に勇気づけられています。

そして、ある友達にいつも弱音ばかりは聞いていました。そうすると、その友達はいつの日か私の弱音を聞くようとしてくれませんでした。友達に聞いてみるとそれには、ある理由があったそうです。例えば私が「もしかしたら、失敗するかもしれない」というと、その失敗が現実になってしまうかもしれないと思っただけだからといっていい。だから、私は次のことを心がけるようになり

ました。
一つ目は、感謝の気持ちを忘れないことです。どんな人にも感謝の気持ちを持ち、そして自身への感謝を忘れないことです。
二つ目は、人に優しく接することです。誰に対しても優しく、思いやりのある行動をします。

三つ目は、成功を心に浮かべることです。自分が成功した姿を想像できるのは自分自身だからです。
四つ目は、ネガティブな考えを吹き飛ばすことです。「これはツラすぎる。何か別なことをしよう。そっか、今すぐやめて本でも読もうかな」と気持ちをきりかえるようにします。そして、「自分だって世界を動かせるんだ」と信じ、自分で「自分の人生」の目標や夢をみつけ、その目標と夢に向かって努力していきます。

この四つを心がけるようにすることで、「背中がまるく」、「胸を張ることができない」、「いつも過去の失敗を引きずってしまいがち」な自分とさよならができると思います。そして、母のように周りのことをよく見て、たくさん人のことを理解し、認められるような人になろうという新たな目標ができました。その目標に向かって、四つのことを努力していきます。



自分ができることで 見えてきたもの

大刀洗中学校
二年 熊谷 美咲

「自分ができることを力に変えてがんばりたい。」私がそう思い、今も伴奏を続けられているきっかけは、約二年前のある出来事でした。

小学五年生の時、私は、在校生として卒業式の練習にのぞんでいました。その時卒業生の歌声

に、きれいに合わせて力になっている伴奏を聴いて、あこがれを持つようになりました。そして月日がすぎ、私は六年生になりました。十二月頃の風が冷たい季節でした。

「伴奏を弾きたい人は後で残ってください。」先生はこう言いました。残っていた私に、楽譜が渡されました。歌の大きな柱に自分がなれて、ともうれしい気持ちになりました。

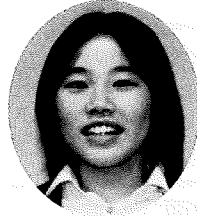
私は、ピアノの先生に楽譜を見せました。「これ難しいけど、少ない練習時間で本当に弾けるようになりますか。」

私はそう言われました。自分がしたいからばかりに選んでいた事に気付かされました。その時の私のピアノのレベルは、譜読みに時間がかかるし、リズム、拍の取り方など、自分ですらできていませんでした。そこで私は、冬休みを有効に使い、ピアノの練習量を増やしてもらいました。そして、だんだんと少しずつ弾けるようになり、ピアノの先生にも、部分ごとに、丁寧に分かりやすく教えてもらいました。そして冬休みが終わり、三学期になりました。その時には、伴奏もひととおり弾けるまでになりました。「これで大丈夫」私はそんな気持ちになりました。しかし、ここからが本当の苦労の始まりだったのです。

二月から卒業式の歌の練習が始まり、三月からは、全体での練習が始まりました。皆の歌に合わせてきれいに奏でることは想像以上に難しく、伴奏が止まってしまったり、何度も間違えて、皆に迷惑をかけてしまったりとなかなか前へ進めませんでした。うまくいかずにいた私は、朝と昼休み毎日練習をするようになりました。時には先生の厳しい指導も辛くなりましたが、その分できるようになった時には優しい言葉をかけてくれました。

そして本番：私は間違えずに気持ちよく伴奏ができました。今まで努力した分が結果に出て、達成感で一杯でした。

みなさんには、今努力しているものはありませんか。部活や勉強、自分の好きなことや得意なこと、いろんなものがあると思います。私も自分で挑戦してみたくて、一步踏み出して得られるものがありました。その中で感じたことは周りの人の支えが、自分の心の支えになっていくことです。私は卒業式の伴奏をしたから、今でも伴奏が続けられています。目の前にある何かに挑戦することは難しいことですが、努力をしたら、どんな形でも返ってくるんだなと実感しました。



成長

大刀洗中学校
三年 酒井 千里

私は、六歳の時から柔道をしています。だから中学校の部活も柔道を選びました。しかし、練習がきつかったし、他のスポーツもやってみたくて思っていたため、柔道をしたくありませんでした。そう思っていた私の心とは裏腹に、周りの人から柔道が続けることをあたり前のように入話されたり期待されたりして、やらざるを得ない状況でした。

そんな中、入った部活も初めは先輩達のおかげで、楽しく頑張ることができました。そして、数箇月程たつと私も試合に出るようになりました。中学生女子の団体戦は三人制で、先鋒、中堅、大将があります。私はいつも先鋒なので団体戦に出るときは、一番最初に試合をします。先方が勝つと有利になり、チームの流れをつくることができます。しかし、私は、勝たなければならぬプレッシャーに勝つことができませんでし

た。相手の中堅、大将が強くて私がポイントをとってこないといけないことが多々あります。でも、私は、ほとんど勝てず、いつも迷惑をかけてしまっていました。そのせいでチームが負けてしまったこともあり。どれだけ練習しても勝てなくて、私は次第に柔道が嫌いになってしまいました。柔道のことを考えると、息がしづらくなったり、せきがとまらなくなったりしてつらい時期もありました。

どうして私は柔道部に入ったんだろう。私の頭には後悔しかありませんでした。そして、やめようにもやめられず、何も考えずにただ時間だけが過ぎていく部活が続きました。なぜ、部活をしているのか、部活なんかなければいいのに、私はそんな風にはかり思っていました。

自分ではどうすることもできずに時間だけが過ぎていく中、私はケガをしてしばらく部活を休みました。もともと腰痛もちだったのが練習で悪化してしまっただけです。痛いのはつらかったけれど、逆に練習をしなくていいので、正直「ラッキー」という気持ちがありました。私は、部活に行つてもみんなの練習を見ることがあります。

そこで、私の心は変わりました。いつも私は、自分のことしか考えず、自分のことしか気にかけていなかったことに気がついたので。しかし、見学者として練習を見てみると、いつもとは違うものが見えてきました。みんな一生懸命に相手に向かって、真剣な表情で練習をしています。特に印象に残ったのは、中学校から柔道をはじめた人たちです。その人たちは、まだ試合に出ることができませんでしたが、私は試合に出ています。当時、自分はその人たちより頑張っているわけでもないのに試合に出て、負けていました。でも、それはあまりにも失礼なことだっただけで、誰よりも頑張っていました。私は、仲間の練習を見ているうちに、誰よりも頑張っていました。試合に出る、そして勝とう、と心からそう思いま

した。

そして、ケガが治り復帰してからは、一生懸命練習するようにしました。積極的に声をかけたり、行動したりすることに努めました。そして、私は部長になりました。以前は自分のことしか考えていませんでしたが、部長になったことで周りのことにも気を配ようになりました。私は、仲間のおかげで変わることができました。

部活動というのは、仲間関係を築いたり、社会性を育てたりする役割があると思います。しかし、それだけではなく自分を成長させ、自分を変えることもできます。現に私は、ずっと部活動なんてなんの意味があるんだ、はやく柔道をやめたいと思っていましたが、今では柔道をしていて良かったと思っています。どんなに嫌なことでも、意味がないと思っても最後にはよかったです。思えることがたくさんあります。私にもまだまだ足りない所もたくさんあるし、成長できる部分もたくさんあると思います。だから、これから何事にも自分から挑戦し、周りを見て周りの人から多くのことを学び、成長していきたいです。



ふれあいウォーキング大会

大堰校区民会議
佐藤美和子

十月二十六日(土)、すっきりと晴れた青空の下、第十九回大堰校区ふれあいウォーキング大会が行われました。大人、子ども合わせて約百二十名の参加があり、にぎやかに片ノ瀬公園まで歩きました。

新しい建物に気付いたり、川の様子を見たり、子どもたちはいろいろな発見をしたことと思います。見守り隊や消防団、交通安全協会の方々には安全面でご協力いただき、無事に片ノ瀬公園に到着しました。

公園では、レクレーションが待っていました。バラバラになったカードを見つけ、書かれたミッションをクリアするとお菓子がもらえるゲーム等、講師の先生に楽しい遊びを教えていただきました。中学生ボランティアの皆さんも大人も加わり、いつもとは違う雰囲気ですべてよかったです。

楽しく遊んで少し疲れましたが、行きと同じ道のりを大堰交流センターまで戻ります。到着後は、おにぎりの昼食とお楽しみみの抽選会です。呼ばれる番号に一喜一憂、さらににぎやかになりました。

このように毎年、大人も子どもも地区全体で集まり、楽しむことができます。このように毎年、消防団、見守り隊、交通安全協会、中学生ボランティア



等々、さまざま
みな方々の
ご協力が
あつてこそ
と深く感謝
しております
す。無事に楽
しく終了し
たウォーキ
ング大会が
今後も続く
ことを願っ
ております。

歩こう会

本郷校区民会議
会長 岩崎 耕市

十月十九日(土)、前日の激しい雨により、目的地の平塚川添遺跡公園芝生広場での昼食が不可能とのことで、ふれあいセンターにおいて映画鑑賞をし、その後ウォーキング3kmをゆっくり歩いた後、子どもにはおにぎり・おやつ・飲み物を配り、今年も区長会の皆様より特別な差し入れを頂き、大人にはおにぎり・お菓子・飲み物・ミカン

を配って終わりました。実施するにあたり、役員会・評議委員会を開いて役割分担を決め、三役による下見を行い、現地の平塚川添遺跡公園管理職員と綿密な打ち合わせしました。残念な結果となりました。

大規模な土砂災害や浸水被害を引き起こした台風十九号の影響で死者・行方不明者を合わせると百名近くになり、停電・断水・避難所生活がまだ続いています。変革・変動の令和時代を担う子ども達を守るため、自分に何ができるかを考えるときではないでしょうか。これからも増える自然災害や地球温暖化を少なくするための施策を大人が考え、子どもに見本を示さなければならぬと思います。毎日の見回り活動、一番身近に接していただいているPTA会員の皆様に感謝申し上げます。



ふれあいウォーキング大会

大刀洗校区民会議
田平 健司

前線を伴った低気圧の影響で朝方まで雨。当日の十月十九日(土)は、日差しが指して来たものの『ふれあいウォーキング大会』目的地のコスモスパーク北野は遊具周りや芝の広場に水たまりが出来、使える状況ではなかったために、大刀洗小学校の体育館や校舎を使いスポーツやゲームを行う事となりました。

子ども達へ、ハイキングが無くなった事を伝えると「え〜」と言う声と残念そうな表情を浮かべていましたが、トン逃がすな・大縄跳び・連続縄飛び・宝探し・ビンゴゲーム・自由時間(ドッチボール・バスケ・カードゲーム等)始めると一生懸命に取り組んでいます。宝探しでは、校内の一部を使い役員さんが一生懸命に作った宝物を一年生から順に探していきます。早く見つけに行きたくウズウズしている生徒たちは、スタートの掛け声と同時に駆けだしませんが、先生たちは安全を考慮し、「走らなく」と止めに入ります。宝物は簡単な所から見つけていきます。五、六年生になると難しい所が残り、なかなか見つからず焦りだす生徒もいました。最後は、みんなで囲んで食べる予定だったお弁当とみかんを配って午前中での閉会となりました。

地域の皆様との触れ合いを通じて、地域の活性化・子ども達の健全な成長等に取り組みんでいます。今後も、いろいろな活動が計画されて参りますので積極的な参加と呼びかけを宜しくお願い致します。



歩け歩け大会

菊池校区民会議
小川 純子

すがすがしい秋晴れに恵まれた十一月二日(土)、「歩け歩け大会」が催されました。菊池小学校から片道約4kmを幼児四歳から高齢者八十歳の参加者やボランティアスタッフがを含め総勢百五十五名が筑前町の多目的運動公園をめざして歩きました。途中信号のある大きな通りや、歩道のない細い道もありましたが、育成会スタッフの声掛けや迅速な対応により、予定時刻より一時間ほど早く到着することができました。エキストラタイムができたことで、子ども達は遊具に熱中して公園を満喫し、大人は木陰でゆっくりお昼のゆとりの時間を過ごすことができました。午後からは、「花立山ファーム」で芋掘り。担当者の方から説明後、子ども達は「紅はるか」「シルクスweet」の二種類の芋畑に一齐に向かって行きました。「でっかい芋」「なんか動きよる」いろんな声が聞こえてくると、最初は遠慮がちに眺めていた大人の方も、いつの間にか童心に返り一緒に芋掘りをしていました。終了時間になっても、まだ掘り足りなさそうな顔を見て、ファームの担当のおじさんから契約した区画を大幅に広げていただくサプライズ！最後の最後まで子ども達はどろんこになり、お芋と格闘していました。

帰りは、チョット早い紅葉とブロッコリー畑を眺めながら、行き道には聞こえなかった童謡、笑い声とともに和やかな帰路となりました。

閉会式では、地域振興の一環として参加していただいた宝幸様、そして子ども達からのお礼のこトばをいただき、心がほっこりした一日になりました。日頃の運動不足を解消し、参加者の皆さんとの親睦とふれあいので有意義な一日となりました。最後に、寛部長をはじめ役員の皆様、本当にご苦勞様でした。

心よりお礼申し上げます。



少年の主張大会

「私からのメッセージ」 小学生的の部



大好きな友達

本郷小学校
六年 山田 心優

みなさんは、友達のことが好きですか。私は、とても好きです。特に学校で友達と過ごす時間が楽しく、日曜日には、「早く明日にならないかな」と、楽しみにしています。今はこうして楽しく過ごせていますが、去年、私は友達との関係でもとても悩みました。

私は、四年生の時に菊池小学校から転校してきました。友達とのお別れはさみしく、新しい友達と仲良くなれるか、とても不安でした。でも、同じクラスのみながたくさん声をかけてくれて、すぐに友達ができました。縄跳びをしたり、登り棒をしたりして、外でたくさん遊びました。おしゃべりするのもとても楽しく、本郷小学校のこともすぐに好きになりました。

しかし、五年生になってクラス替えがあると、そんな楽しい学校も変わってしまいました。四年生までは、みんな静かに勉強ができていましたが、五年生になると、授業中におしゃべりしたり、立ち歩いたりする人もでてきました。私は、「みんなとちゃんと勉強したい」という思いから、繰り返し、友達に注意しました。でも、相手

からは「俺だけじゃないやん」「だれだれもやん」などと、言い返されました。一緒に注意してくれる友達もいましたが、何度注意しても変わりませんでした。

二期期になっても、状況はあまり変わりませんでした。そんなある日、とても悲しいことがありました。授業中に前の席の人が大きな声でしゃべっていたのでいつもの様に注意をしました。すると、教科書と机に『死ね』と書かれました。『死ね』という文字を書かれたことにびっくりしたし、「なぜ、書くの」と悲しくなりました。友達から「あまり気にしないでいいよ」と言われ、私は気にしませんでした。しかし、今考えてみると、心の中では自分の気持ちを押し殺していたと思います。その後何度も書かれ、私は、あんなに楽しかった学校が嫌いになりました。「みんなと一緒に勉強したかっただけなのに」「どうすればよかったのだろう」と悩みました。死にたいとも思いました。お母さんから「何があつたの」と聞かれましたが、全部は言えませんでした。教室に入るのも嫌になり、保健室にいたこともありました。保健室では、友達とのことはあまり話したくなかったけれど、少しずつ話せるようになりました。たくさん涙も流しました。謝つてもくれませんが、心から謝っているようにはとても思えません。泣いてなかったら、手を出していたかもしれせん。そんな苦しい時でも、毎日休み時間には友達が来てくれておしゃべりをしました。おしゃべりをするのはいつも楽しく、面白く、ちよつとずつ元気になっていきました。励ましてくれた友達も何人もいました。

そして六年生になり、教室や担任の先生が変わりました。春休みはどうなるか不安で行きた

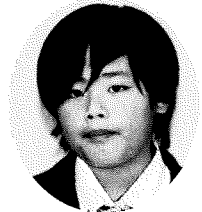
くないなと思つていましたが、始まつてみると、みんな集中して学習することができ、自分勝手な言い訳も減りました。

五月に、みんなでこれまでのクラスのことを振り返りました。自分たちのクラスで起きていたことを振り返り、自分のクラスなのだから、自分がまず行動しようと思つて確認しました。学習規律はもちろん、みんなが笑顔で卒業式を迎えられるように、係でイベントをしたり、係でできないことも自分から企画し、メンバーを募集して実行委員を立ち上げたりしています。私も、一学期は「本をたくさん読もう実行委員」を立ち上げ、毎日声掛けをしました。すると、図書室だよりに二か月連続でできることができ、みんなで喜び合いました。他にも、昼休みにハロウィンパーティーをしたり、大根を育てたりと、クラスみんなで笑顔になる取り組みをたくさんしています。帰りの会では、一日を通しキラリと輝いていた人を毎日伝え合っています。

今世の中を見ていると、いじめが原因で自殺する人もたくさんいます。いじめは、絶対にはいけません。私も、言葉では言い表せないくらい苦しみました。でも、私にはいつもそばにいてくれた友達や先生、家族がいました。そのおかげで、私は立ち直ることができ、今は楽しく生活することができています。

みなさん。もし、友達が嫌な思いをしていたら優しく声をかけてあげてください。声をかけられるととても勇気づけられます。声をかけることができなくてもそばにいてくれるだけで、安心します。すると、私みたいに立ち直ることができると思います。見て見ぬふりはしないでください。「誰かが…」や「あの人も…」などといった自分勝手な考えはやめましょう。自分も含めて

みんなが笑顔で過ごせる世の中にしましょう。



自分たちの手で 平和をつくって行く

大刀洗小学校
六年 仲野 海希翔

みなさんは、平和について考えたことはありますか。平和とは何だと思えますか。ぼくは、誰とでも仲良くすることが平和につながると考えています。

今から七十四年前、戦争によって多くの人がが苦しめ、尊い命が奪われました。人々は戦争は絶対にしないとちかいかい、苦しみ悲しみ怒りを乗り越えて立ち上がり、互いに手を取り合いながら、前を見て生き続けました。そして、今、この平和な時代が築かれたのです。人間らしく生きることができず、たつたひとつしかない尊い命を奪った戦争、大切な家族や友達を失った戦争、このよいうな戦争は二度と起こしてはなりません。一人一人が、平和をつくるためにすべきことを考え、行動することが、平和につながります。

それでは、小学生であるぼくたちが、平和をつくるためにすべきことは何だと思えますか。ぼくは、三つのことを考えて実践しています。

一つ目は、相手の話を聞き、共感することです。特にぼくは、話を聞く時に「うめかき」を心掛けています。「う」うなずきながら、「め」目を見て、「か」体を向けて、「き」最後まで、です。「うめかき」をすることで相手のことを大切にしようという思いも大きくなり、相手も安心して話をしてくれます。つまり「うめかき」はあたたかい人間関係

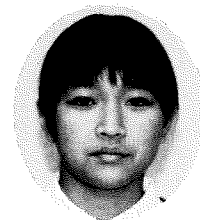
をつくりみます。みなさんもぜひやってみてください。

二つ目は、今生きていることに感謝し、今の日常のありがたさを感じながら、目標をもって一杯生きるということです。長崎の修学旅行では、被爆体験者の下平作江先生に話をうかがいました。下平先生の言葉でぼくの心に残っているのは、「生きることをあきらめない」です。ぼくはこれまで生きていくことが当たり前だと思っていました。しかし、戦争当時は生きることさえつらく、こんなにつらいなら、いつそのこと死んでしまいたいと思う人もいたそうです。しかし、生きていければきっと道は開ける、そう信じた下平先生は生きることのありがたさに気付きました。ぼくは、生きることのありがたさに気付き、その瞬間から精一杯生きています。全ての人が精一杯生きることで、お互いを高め合い、ひいては支え励まし合うことにもつながります。ぼくは、大刀洗小学校のたてわり絆アップ委員会の委員長として、全校のみんなが仲よく過ごせるような全校遊びやたてわり遊びを考え実践しています。下級生が笑顔で遊ぶ姿を見て、「委員長として頑張つてよかった、次もやるぞ」と力がわいてきます。精一杯な姿は、必ず相手に伝わり、人々がつながります。そこには、必ず平和が生まれます。

三つ目は、自分が正しいと思うことを堂々とすることです。ぼくが正しいと思う行動は、友達が困っていたら声をかける、絶対にいじめをしない、学校や学級のきまりを守つて過ごすことと考えています。ぼくは、最高学年として下級生の手本になるよう行動しています。全ての人がベクトルをそろえて正しい行動をすることが必要です。

ぼくは、この三つのが平和をつくる、そして、平和を守り続けることにつながると信じ、これからも実践し続けます。

みなさんは、平和をつくるために、今、何をしていますか。全ての人が安心して自分らしく生きることが出来る平和を、ぼくと一緒につくっていきましょう。



友達とつながり 合うために

菊池小学校
六年 佐藤 奈南

みなさんは少しでも人のかけ口を言ったことはありませんか。

私は、五年生くらいから人のかけ口を、よく言つてしまつていて、気づいたら遊ぶときも帰るときもずっと言つていました。五年生になり、私は苦手な友達やきらいな友達をさけたり、意識したりするようになりました。そして、そのころは、友達も言つているんだし、先生に聞こえてなければいいやと思ひ、かけ口を言つていました。そして、私の言つたかけ口に共感してくれる友達がいるとうれしく思つたり、楽しく思つたり、そしてなにより、スツキリするように感じるものがありました。私は、かけ口という、人の心が傷ついたりしてしまう方法でたまつたストレスを発散していたんだと思ひます。しかし、今私はかけ口を言わないために、心がけていることがあります。まず、もしムカツときても、グツとこらえガマンすることです。自分がグツとこらえガマンすることで自分からはかけ口を言わなくなりません。そうすると、周りからも少しづつかけ口が

へると思います。次は、苦手な友達と自分から関わることです。そうすると、苦手な友達だった人も、ふつうに話せる友達にかわり、その人のおかげ口を言わなくなると思います。私がこんな風に変われたのには、きっかけがありました。そのきっかけは、私が六年生になった時におとずれました。総合の授業で今自分達が思っていることを言うことがありました。私は友達の意見を聞いて人間関係について深く考えました。そして、このことが、なぜ、かげ口を言ってしまったのかを考えるきっかけになったのです。

まず、いっしょになつてかげ口を言うことで、うれしく感じ、仲よくなったように錯覚してしまふのだと思います。しかし、これは、かげ口でつなぐただけで、本当の友達ではありません。また、その人のことがうらやましくて、その人の悪い所を見つけようとし、共感してくれそうないだれかと、かげ口を言ってしまうという場合もありました。その他にも、自分の仲の良い友達がかげ口を言っていたら、それに共感しないと、仲間外れにされたり、もう仲良く遊べないんじゃないかという不安もありました。みなさんにもこういう体験があるのではないかと思います。今述べた、かげ口の理由には、共通点があります。それは、かげ口を言っても、誰ともつながり合えないということです。かげ口は、悪い関係を生み出しながら、言われた相手を傷つけ続けま

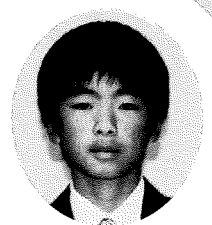
す。私は、かげ口をやめようと思いましたが、そして、友達と心でつながり合う関係になりたいと思いました。今、私達六年生が、かげ口をなくし、仲間づくりをするために取り組んでいることをみなさんに紹介します。

思いや考えを相手に伝え合っているかを話し合いました。そして、様々な場面で自分から積極的に苦手な友達へ関わっていくことを確認し合いました。長崎への修学旅行は、おたがいのつながりを実感できる体験となりました。

二つ目は、あたたかい言葉を自分から口にすることです。「ありがとう」、「おはよう」などのやさしい言葉を相手に伝えることで、相手は笑顔になることができ、良い人間関係を築くことができます。毎朝のニコニコタイムでは、たったの一分間ですが、ハイタッチでおはようの楽しいゲームに取り組み、一日を笑顔でスタートさせています。

このように、友達と本当につながり合っているためには、自分から積極的にコミュニケーションをとる、トラブルが起きた時には、相手に分かる言い方で伝えることが必要だと思えます。自分が思っていることを周りにコソコソ言うのではなく、その人に正直に言うことが、相手との関係をつくっていく一番の方法だと思えます。その人が理解でき、傷つかない言い方で言えば、きつと理解し合えると思うからです。

みなさん、自分がついかげ口を言ってしまうようになった時、どうぞ今日の話を思い出して下さい。私は相手を信じ、自分の考えを精一杯伝えることを続けていきます。そこには、強く、あたたかいつながりが結ばれると信じているからです。



苦手なことを克服したい

大堰小学校
六年 大倉 稔也

ぼくは、これまでみんなの前に立って何かをすることや、リーダーという役割をすることが得意ではありませんでした。しかし、最上級生になり自分の苦手なことを克服したいと思うようになりました。そのチャンスはすぐにやってきました。

六年生になつてすぐ、運動会の役割決めがあり、ぼくは応援団になりました。応援団だけで集まり、団長決めの時に、ぼくは自分から手を挙げ、応援団長になりました。正直、団長としてみんなをまとめていけるか不安やあせりもありましたが、一生懸命やろうと前向きな気持ちで始めました。

まず、応援団として最初の大きな活動は団結式です。応援団全員の自己紹介や、応援団以外の白組のみんなのやる気を高めていきます。しかし、前日までに十分な練習ができておらず、緊張もしてしまい、なかなか思うようにはできませんでした。赤組を見てみると、白組より上手にできているように思えました。その後の練習を見ても、赤組は声が大きく、細かい動きの練習にも入っていて、白組との差を感じました。ぼくはともあせって、どうすればいいかわからなくなっていました。自分はみんなをまとめることはできないのではないかと、正直落ち込みました。大勢の人に何かを伝えることはこんなにも大変なんだと痛感したのです。

しかし、ここで逃げ出してはだめだと思いましたが、ぼくは、練習の仕方や伝え方を自分なりに考えるようになりました。毎日、練習日誌をつけ、その日の練習計画や反省点などを書いてきました。すると、計画を立てることで、何をしたらいいのかはつきりと分かり、全体練習がスムーズにいくようになりました。また、毎日ふり返りを日誌に書いていくことで、次はこうしようとか、こんな言い方の方が分かりやすいとか考えるようになりました。休み時間の応援団の練習の時には、声が小さかったら応援団全員の声も出ないと思い、自分から大きな声を出しました。そして、団員一人一人に大きい声を出させることを意識して声かけをしました。しかし、課題は次から次へと出てきます。声が出るようになっていても動きがなかなかそろわず苦戦しました。美しく見せるために、うでの動きや腰の落とし方をそろえたいと思うのですが、そろいません。応援歌も低学年にとっては難しかったように、声が出ていません。どうしようかとあせりが大きくなっていくばかりでした。

その時、同じ六年生の応援団のみんなが声かけや練習などをサポートしてくれたのです。「そうだ、応援は自分一人で作るものじゃないんだ。」

そう思い、みんなで協力しながら練習を進めました。本番が近づくにつれ、応援はどんどん盛り上がっていき、みんなの必死な姿から、ぼくは、たくさんの力ももらいました。

いよいよ迎えた運動会当日。この日の応援ひろうでは、これまでに聞いたことのない声の大ききさで、見たこともないそろった動きをみんながやってくれました。その一致団結した姿に、ここまで一生懸命やってきて本当によかったですと胸

がいつぱいになりました。あの時あきらめていたら、ここまでできなかったし、きつと後から後悔したと思います。運動会が終わった後も、「団長、頑張っていたね。」

「練習の時から、みんなをまとめていたね。」と、たくさんの先生方から声をかけてもらいました。その言葉を聞き、これまで苦手だと思っていた「みんなをまとめること」が少し克服できたのではないかと感じました。

人は誰でも苦手なことがあると思います。しかし、苦手だからと目を背けていては、自分の生活は何も変わりません。ぼくは応援団長をすることを通して、大切なことを学びました。それは、苦手だと思っても、挑戦し、失敗を繰り返しながらも向き合うことの大切さです。挑戦することは、自分自身を成長させてくれるし、これからの人生の中で必ず役立つ力になります。また、必死に取組んでいると、その姿を見た人が、必ず協力してくれます。だから、ぼくは、これからも苦手なことから逃げ出さず、挑戦していきたいと思います。そして、成長し続ける人でありたいと思います。



大好きなおじいちゃんへ

本郷小学校
六年 原田 大我

ぼくには、上高橋に住んでいるおじいちゃんとおばあちゃんがあります。おじいちゃんはおバスをかりて旅行につれていってくれます。また、つりぼりにもよくつれていってくれます。だから、ぼくはおじいちゃんが好きです。おじいちゃん

んおばあちゃんの家のお近くには、駅やスーパーがありません。だからお出かけしたり買い物したりするときは、車を使っています。しかし、ぼくはおじいちゃんが車に乗っていることがとても心配です。それは、あるニュースを見たことがきっかけです。

みなさん、最近、高齢者ドライバーの事故が多いことを知っていますか。ぼくはよくニュースで、アクセルとブレーキの踏み間違いの事故のことを目にします。このようなニュースをみると、ぼくのおじいちゃんも踏み間違えてしまったり、巻き込まれてしまったりしないか、とても心配になります。

そこで、ぼくは、高齢者ドライバーが自主的に免許を返納することがいいのではないかと思います。そうすることで、高齢者が車を運転することがなくなり、事故が減ると思ったからです。しかし、電車やバスが少ない所に住んでいる高齢者が免許を返納してしまつたら生活が不便になってしまいます。大刀洗町も電車やバスが少なく上高橋にすんでいるおじいちゃんも困るはずです。返納はかんたんなことではありません。だからぼくは、もう一度考えてみました。すると、すこし前に見たニュースを思い出しました。ニュースにはこう書いてありました。

「大ヒット！ペダル踏み間違い防止・対策に「ペダルの見張り番」」

これは、停止中や十キロメートル未満の低速であれば、間違つてアクセルを踏み込んでも、ペダルの見張り番の警告音が鳴ってエンジンの回転が上がりなくなるといふものです。そして、アクセルをゆつくり踏めば、通常通り走行できます。さらに、ブレーキを踏みながらアクセルを踏んでも、ブレーキが優先されるので安心です。

だから、「ペダルの見張り番」をつけなければアクセルとブレーキを踏み間違えても事故が起きることが確実に減ります。

次に、ぼくが考えたのは、車にセンサーをつけることです。そうすれば接触事故が減ると思います。最近では、車に衝突回避システムのセンサーを付けて走っているCMが流れています。このシステムがついていれば、車や人との接触事故も防げるのではないかと思います。

このように、「ペダルの見張り番」や衝突回避システムのセンサーがついた車に乗ると、高齢者ドライバーが免許を返納しなくても、安心して車に乗ってもらえます。ぼくは、ぜひ、おじいちゃんにそのような車に乗ってもらいたいと思っています。

しかし、高齢者の次に事故が多い年齢は、十六才から二十四才なのだそう。平成二十七年には約八万人の方々が事故で亡くなっています。毎年、この数は減ってきていますが、決して0にはなりません。だから、ぼくも事故には気をつけたいと思います。ぼくのように大人になったらぼくの運転で家族を旅行につれていきたいと思っている子どもがいることを忘れないで下さい。だからみなさんも運転について、もう一度考え直してみして下さい。大刀洗も、車がないと不自由な場所です。ぼくのためにも安心できる車に乗ったり、運転の仕方を見直したりして下さい。

そして最後に、大好きなおじいちゃんへ。

ぼくはあと六年で運転免許証を取れる年になります。ぼくが運転免許証を取ったらおじいちゃんがいそいそと連れていってくれたように、ぼくもおじいちゃんをいろいろな所に連れていってあげたいです。そして、おじいちゃんを楽

しませて笑顔にしてあげたいです。だから、おじいちゃんはいきたいところを考えておいて下さい。どこでも連れていってあげるけん楽しみにしとつてね。



思いやりの心

大刀洗小学校
六年 井島 絵瑠夢

「ありがとう」「一緒にがんばろう」「大丈夫？」みなさんは、このような相手の気持ちを考えた思いやりのある言葉をまわりの友達にかけていますか。私は大刀洗小学校の最高学年として、思いやりの心の大切さについて考え行動する日々を送っています。

私は、思いやりの心がもたらすものは四つあると考えました。

一つ目は笑顔が生まれるということです。自分も相手もうれしい気持ちになり、笑顔が生まれます。笑顔は人を安心させ、元気にします。私がかんがけていることは、友達にしてみらった時に、友達の目を見て笑顔で「ありがとう」と言うことです。友達が笑顔で「いいよ」と返してくれた時のうれしさは、今も忘れることができせん。

二つ目は、けんかやいじめがなくなり、和ができるということです。私は、友達のために動ける人になりたいと考えていましたが、そのような考えをもっているのは私だけではありません。みんな同じ思いをもって友達と関わろうとすると、次第に声をかけ合うことが増え、つながりができました。私自身、これまであまり話を

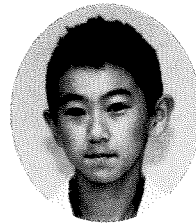
しなかった友達とも気軽に話せるようになり、誰でも協力することにつながっていききました。私は、六の一、そして、大刀洗小のみんなは本当に仲が良いと思います。これは、私だけでなくみんなが思いやりの心をもって相手のために行動しているからだと考えます。

三つ目は、支え合う絆が生まれるということです。大刀洗小では、全校で大縄跳びをしています。ですが、そこでも思いやりを発揮しています。例えば縄に引つかかかってしまった友達に「ドンマイ」「がんばろう」という声かけをしています。また、引つかかかった友達もみんなに「ごめん」と言っている。次はがんばろうという気持ちを高めています。たとえ失敗してもみんなが支え励ましてくれることで安心が生まれ、次は自分がみんなを支えたいという強い思いが生まれます。また、私の学級の大縄チームのメンバーは、昼休みに下級生と大縄練習をしています。下級生に一回でも多く跳べるようになってほしいという思いから始まった取組です。下級生のために縄を回し、跳び方を教えている仲間の優しさや思いやりに触れ、私も仲間、そして下級生のために思いやりの心を発揮したいと強く考えるようになりました。

四つ目は、みんなが楽しく過ごせるということです。楽しい学校生活は、私たちが自分たちの力でつくっています。大刀洗小の毎週金曜日は、さらさら思いやりデーです。昼休みは全校遊びや縦割遊びをしています。私は縦割絆アップ委員会の一員として、下級生が楽しめる遊びを考え、実践しています。下級生が笑顔で遊びを楽しむ姿を見て、「下級生のために頑張つてよかつた」「これからも、下級生に思いやりの心で接しよう」という意欲がわいてきます。

私は、これからも思いやりの心を大切に、大刀洗小の思いやりの心を増やしたいと考えています。そのために、私が今後、取り組みたいことは、「進んであいさつ」「困っていたら声をかけ」「友達を呼び捨てにせず、〇〇さんと呼ぶ」ことです。

みなさん、私と一緒に思いやりの心を発揮しませんか。そして、大刀洗町を思いやりいっぱい、あなたか町にしていきましょう。



よりよい関係を めざして

菊池小学校
六年 久保山 祐太

みなさんは、どんな友達とも関わっていますか。あいさつをしたり、話したり、一緒に遊んだりして、よい関係をつくっていますか。

僕自身も、僕たちのクラスも、決して、完璧にはできていません。例えば、席がえの時や学習の時には、特定の友達としか話さずに時間が過ぎることもあります。一方、修学旅行のレクレーションやクラスの集会では、いろいろな友達と関わり、みんな楽しんですることができました。そういう時は、みんなが楽しく笑っていて、いい雰囲気、いい関係ができていますと実感します。

それでは、僕たちは、何か特別の時にしか、いい関係をつくれませんか。普段から、いい関係をつくることはできないのでしょうか。

朝、学校に着いて、教室に入る時のことを思い出してみてください。みなさんは、どんなふう

に、教室に入っていきますか。みなさんが教室に入った時、クラスの友達はどうなふうに反応していますか。

僕たちのクラスでは、友達が教室に入ってきたら、あいさつをすることを心がけています。しかし、先生がいる時にはあいさつが聞こえるのに、先生がいなくてあいさつを返してもらえないことがあります。また、先生がいても、人によって、あいさつをする友達が決まっているように思います。

僕が教室に入ってくる時に、もし誰もあいさつしてくれなかつたら、やっぱり悲しいです。あいさつは、誰にでもして、いい関係をつくるためのものです。先生がいてもいなくても、みんなであいさつをし合って、楽しい一日をスタートさせたいものです。

また、いい関係をつくるために、僕たちは、次のようなことをしています。毎朝一分間の時間で、いろいろな友達と関係をつくる活動です。クラスでは、係が進めてくれる「ポカポカタイム」といい、学校で委員会が進めてくれるものは「ニコニコタイム」といいます。

実際に、やって見せます。(モデル演技)
この活動をしていて思うことは、活動を始めるからの僕たちの関係は、確実によくなってきたということです。僕は、普段あまり話さない友達とも関係が深まるようになっていきます。

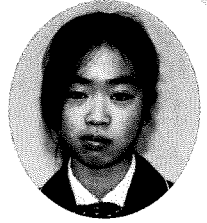
僕たちのクラスには、いろいろな個性の友達がいいます。だから、言いすぎてトラブルが起きたり、逆にうまく言えずにかべがでたりすることもあります。でも、僕も、みんなも、本当は、誰とでも仲よくし、いい関係をつくりたいと思っています。そんな思いはあるのに、クラスの中でうまく伝わらず、関係がぎくしゃくしたことが

ありました。その日が十二日だったことから、毎月十二日を『六の二の日』にし、みんなで振り返っています。

『六の二の日』では、自分たちの今はどんな様子か、一人一人の居場所があるのか、いいところや気をつけたいところは何か、などを出し合い、みんなで話し合っています。「友達を選んで関わっている。」「さけてしまうことがある。」「など、僕たちの弱い部分も出ますが、だからこそみんな考えていることができる、いい活動だと思っています。僕は、一人一人の居場所がある六の二にしたいです。そのために、毎日のあいさつやポカポカタイムで関わったり、『六の二の日』で思いを発表したりしていこうと思っています。

僕たちの学年目標は、『自分で成長、みんなで成長、六年生』です。この目標に近付くために、僕も、みんなもがんばっています。自分だけ、一部の人だけが楽しいのではなく、誰もが楽しい世の中にするためには、まずは一人一人の意識が大切だと思います。僕は、誰とでも関わり、よりよい関係を目指していきたいです。

この会場にいるみなさん、いろいろな友達の個性を認めて、関係をよくしていきましょう。そして、みんなで、もつと楽しく、よりよい社会をめざしましょう。



あきらめない

大堰小学校
六年 長野 真寛

みなさんは、すぐにあきらめてしまうことありませんか。以前の私は、できないと思ったらずぐにあきらめてしまっていました。しかし、今の私は違います。あきらめることは、自分の成長を止めてしまうこと。あきらめなかつた先には、必ずいいことがあると考えるようになったのです。

私は水泳を習っています。今年でもう八年目です。こんなに長く続けられていることに自分でも驚いています。五歳の頃、外で遊ぶことは好きでしたが、運動が苦手だった私は、父のすすめもあり、スイミングクラブに通うことにしました。クラブに入ったばかりの頃は、水中にもぐったりバタ足をしたりと、簡単なことばかりだったので、水泳をとっても楽しんでたことを記憶しています。しかし、コースが上がっていくと、内容も難しくなり、練習もきつくなっていきました。クロールの練習をした時の事です。以前のコースとはプールの深さも、教えてくださる先生も変わり、怖さと緊張でいっぱいでした。そんな私でしたが、先生が優しく教えてくださったので、楽しく練習に取り組むことができました。その頃から、少しずつ運動に対しても自信がもてるようになっていったと思います。しかし、さらに上のコースに進むと、私は新たな壁にぶつかりました。そのコースでは、何度も厳しいことを言われ、自分は下手なんだと自信をもてなく

なっていました。

「もう嫌だ。どうしてできないんだろう。」

「やめたい。でも、泳ぐことは好きだから、やめたくない。」

「苦しい。でも、ここであきらめたら、運動が嫌いだった頃の自分に戻ってしまう。」

やめようか、頑張り続けようかと、くり返し思いながら、それでも必死で練習に取り組みました。練習のかいあって、無事テストに合格したとき、あきらめずに頑張つてよかつたなあと、しみじみ感じました。

この後のコースは、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライと続きました。どれも、泳ぎ方が複雑でなかなか泳げるようにはなりません。練習していると、前に泳いでいる人とどんどん距離が開いていってしまうこともありました。自分が一生懸命泳いでも、追いつくことができない。それがくやしくて、いやだな、いやだなと何度も思いました。しかし、練習を重ねていくうちに、だんだんフォームが固まっていき、泳げるようになったのです。その時の達成感は、今でもよく覚えています。

今、私は、一番上のコースで、個人メドレーやターンの練習に取り組んでいます。苦手なバタフライの練習の時にはコーチから、

「腰を揺らして、腕じゃなくて肩を回す。」

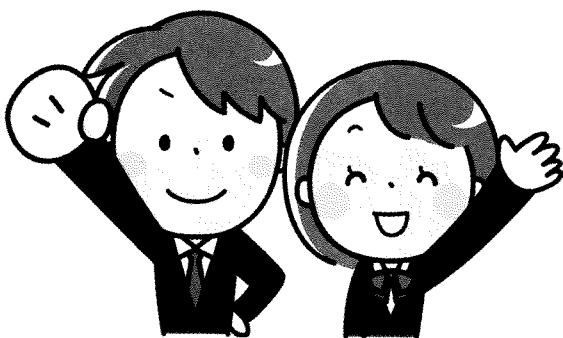
とたくさんアドバイスをもらっています。

だから、アドバイス通りにやってみようと私も必死です。家でフォームの練習をしたり、図書館で水泳の本を見て速く泳げるコツを調べたりもしました。そうやって、コツをつかんでできるようになると、速く泳げるような気がします。そんなときは、コーチから、

「いいよ、その調子。」

とほめられます。ああ、あきらめなくてよかつた、頑張つてよかつたと強く感じる瞬間です。

私は、このような経験から、あきらめることは自分の成長を止めてしまうことだと考えるようになりました。確かに、そう思つてやつていても、うまくいくことばかりではないでしょう。「つらいな。」もうやめてしまおうかな。」と思うことだつて、きつとあると思います。しかし、あきらめずにやり遂げたときの達成感や充実感、何物にも代えがたいということを私は知っています。苦しい、やめたいの一步先に、自分の成長があるのです。あの時、あきらめなかつたから今の私がいる。そう自信をもって言えるように、これからもあきらめずにいろいろなることに挑戦し続けていきます。



令和元年度福岡県青少年育成県民会議
筑後北地区協議会研修大会

大会テーマ **子どもの食育**

食改善の健康講座 **「大地の恵みで究極の元気っ子に」**
 ～体力・気力・学力の向上は食から～

令和元年8月10日(土)、福岡県青少年育成県民会議筑後北地区協議会研修大会を今年度大刀洗町が担当開催しました。当日、遠くは八女市などから多くの参加者が集まり、熱心にお話を聴かれています。

食を改善し、
 元気な子どもに。
 元気は向上力!



元気野菜づくりと元気人間づくり

吉田先生が取り組まれている「元気野菜づくり」は、野菜くずなどの生ゴミを土に混ぜて土の中の微生物「菌ちゃん」をいっぱいにして、その力で農薬不要の元気な野菜(菌ちゃん野菜)を作ります。

おなか畑の土づくりのために

おなか畑の土づくりのためには、次の3つの要素が大切です。

1. ファイトケミカル

植物に含まれる抗酸化力・免疫力をアップする手助けをしてくれる化学物質のことです。「ポリフェノール」、「フラボノイド」、「カテキン」など、今注目の物質で、野菜の皮に多く含まれています。

2. ミネラル

カルシウム、マグネシウム、亜鉛、など筋肉や神経の働きを調整する大切な成分で、不足すると様々な欠乏症になります。ミネラルは体の中で作り出すことは出来ないの、食事で摂らなければなりません、現代人は特に不足していると言われます。このミネラルを効率よく摂るためには、魚を丸ごと食べるとうまく摂れます。

3. 微生物代謝物質

乳酸菌生成物質などのことで、味噌、醤油、酢、納豆などの発酵食品に含まれます。

子どもの健全な成長のために

現代の食生活は、炭水化物、脂質、たんぱく質の3大栄養素は摂れているようですが、それ以外のビタミン・ミネラルなどの栄養素が不足しているものが多いというのが現状です。吉田先生が行ったある小学校では、給食で味噌汁や小魚の粉末を使って、ミネラルなどを摂るようにしたところ、体温が35℃台の児童数と全体の欠席数が減り、更には学業にも好影響が出ている可能性があるとのこと。野菜たっぷりの味噌汁で、ファイトケミカル・ミネラル・微生物代謝物質を補い、子どもの健やかな成長に役立ててみてはいかがでしょうか。



講師 **吉田 俊道 氏**

NPO法人大地といのちの会理事長。1959年長崎市生まれ。九州大学農学部大学院修士課程終了後、長崎県の農業改良普及員に。96年、県庁を辞め、有機農家として新規参入。99年、佐世保市を拠点に「大地といのちの会」を結成し、九州を拠点に生ごみリサイクル元気野菜作りと元気人間作りの旋風を巻き起こしている。2007年、同会が総務大臣表彰(地域振興部門)を受賞。2009年、食育推進ボランティア表彰(内閣府特命担当大臣表彰)。長崎県環境アドバイザー。主な著書は『いのち輝く元気野菜のひみつ』『生ごみ先生のおいしい食育』『まるごといただきます』など。

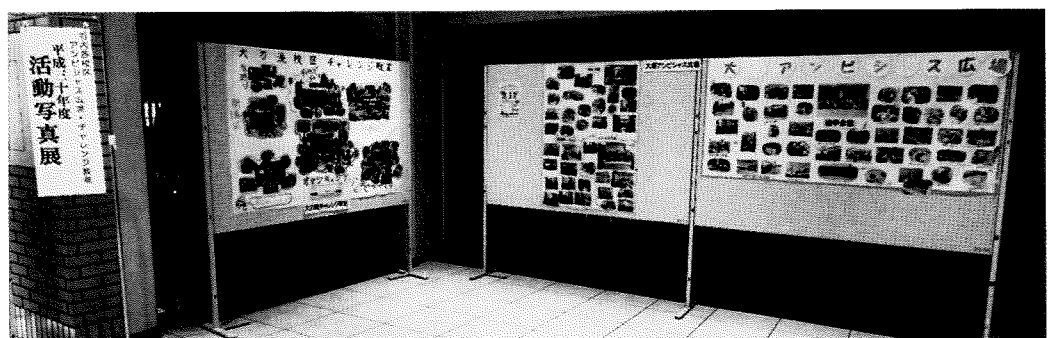
令和元年度 福岡県青少年育成県民会議 筑後北地区協議会大会

大地の恵みで究極の元気っ子に
 ～体力・気力・学力の向上は食から～



【日時】令和元年8月10日(土) 午後1時30分
 会場 大刀洗町 大刀洗町市民センター 2階展示ホール
 講師 吉田 俊道 先生 (NPO法人大地といのちの会理事長)

各校区アンビシャス広場・チャレンジ教室写真パネル展



親子を楽しむ！

まなビィ講座



『家庭の日』と親子対象の講座『まなビィ』とのコラボ企画、親子を楽しむ！まなビィ講座。

第1回 親子レトロゲーム

令和元年8月3日(土)開催。

親も子も一緒に楽しめる講座になりました。

今は、電子ゲームなど楽しいゲームがたくさんありますが、画面から目を離して、相手と対面しながらのゲームは新鮮に感じました。



ジェンガは、皆で協力して高く積上げます。ハラハラ・ドキドキ、そういう体験も大事だと感じました。他にもサイコロや紙コップとストローを使ったゲームなど、自宅にあるものを使って

使えば、楽しいゲームになるんだという気付きになってもらえればと思います。

毎月第3日曜日

家庭の日

家庭の日(毎月第3日曜日)には

- 家族みんなが顔をそろえよう
- 子どもの意見や考えを聞くようにしよう
- 家族みんなでスポーツやレクリエーションをしよう
- 家庭を離れている家族と連絡を取りあおう
- 子どものしつけや方法について考えよう

第2回 文章検定

令和元年10月26日(土)開催。

今回、初めて中央公民館で文章検定を開催しました。

検定前に、小・中学生を交えての勉強会を2回行い、本番に臨みました。検定本番は、みなさん少し緊張しているようにも見え、検定終了後は疲れた顔や晴れやかな顔など様々でした。

検定結果は・・・!? (12月3日に発表されました。) 初めての試みでしたが、来年度以降も希望があれば開催を考えます。

国語の授業 → まなビィ講座

講座にも書ける!

漢検も同時開催!

【文章検】

受検者募集

高野野村公民館
日本語能力検定協会
文章読解・作成能力検定

第3回 お菓子の家作り

令和元年12月22日(日)開催。

親子で楽しそうに共同作業され、それぞれ個性がある作品ができあがっていました。家でやろうと思っても手間を考えるとなかなか出来ないの、こういった講座を活用していただければと思います。



編集後記

二十年ほど前になるが、ペイ・フォワードという映画があった。他人から受けた善意をその人に恩返しするのではなく、それを他の3人に渡していくという働きかけをすることで社会を変えていこうと努力する子どもの物語だ。

地域における育成もそれに似ている。家族や地域の大人が周りの子どもたちを育て、その子どもたちが大人になった時にはその周りにいる子どもたちを育てる立場になっていく。

いつの時代においても、地域の未来を支えていくのは今の子どもたちだ。担い手である子どもたちを、地域で支え合うことで心身ともに健やかに育てていけたらと思う。

(鈴木 雅也)

事務局	原村 智道	西村 勝美
事務局	田中 健司	エドワーズ・テイモシー
大堰校区	石井 明男	佐藤 和子
大堰校区	橋本 朝香	橋本 朝香
本郷校区	橋本 朝香	橋本 朝香
大井洗校区	橋本 朝香	橋本 朝香
菊池校区	橋本 朝香	橋本 朝香
編集委員長	鈴木 雅也	
編集委員		